



JR 摩周駅に設けられたえこパスステーションと川湯駅前を出発する屈斜路バス(右)



今年、道の駅摩周温泉と美幌峠にも停留所が設けられ、より利便性が高められました。えこパスポートは、個人観光客の皆さんを中心に非常に好評で、1日26枚ペース、トータルで約2千250枚ご購入いただきました。購入された方からは「とても便利で、お得なチケットだった」といった声が寄せられています。

好評だった2 days えこパスポート

3カ月にわたる環境にやさしい観光交通実証運行が終了

「弟子屈2 days えこパスポート」を活用した、環境にやさしい観光交通実証運行事業が終了しました。事業は、7月16日～10月10日の87日間にわたって行われました。えこパスポートは、JR 釧網本線の摩周～川湯温泉、町内バスが2日間乗り放題で1千500円(大人)というものの。車を離れ、公共交通機関を利用した環境に優しい旅と、2日間乗り放題にする事で、滞在型の観光を提案することが目的で、購入者には、さまざまな特典も用意されました。また、通常の料金より格安でJR やバスが利用できる、町の皆さんにも便利なパスポートを活用することで、地域公共交通の活性化を目指すという目的もありました。



町の話

加藤思何理さんが162点の頂点に

第5回更科源藏文学賞贈呈式



受賞者の加藤さん(右)

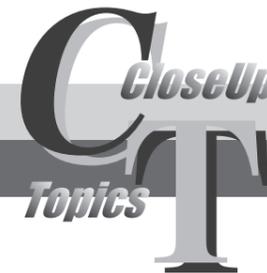
更科源藏文学賞の会(高田中会長)主催の「第5回更科源藏文学賞贈呈式」が10月1日、摩周観光文化センターで行われました。今回は、札幌市出身・大阪府在住の詩人、加藤思何理さんが同賞に選ばれました。この賞は、原野の詩人・更科源藏氏の功績を顕彰するため2003年に創設され、隔年で実施されています。今回は全国から162点の詩集の応募がありました。

贈呈式には、高田会長や町民の皆さん、児童・生徒など約250人が出席。日本現代詩人会会員で同賞選考委員長を務める詩人・原子修氏が、選考の経緯や選評、受賞者紹介を発表し、高田会長が加藤さんに賞状と目録を手渡しました。



「海鳥の歌」を披露する「更科源藏の詩を歌う会」の皆さん

贈呈式終了後には、更科源藏作詞校歌が披露されました。昭栄・川湯両小学校児童と川湯中学校生徒、中標津中学校・根室市立成央小学校、根室高校の生徒が校歌を披露し、たくさん拍手が贈られました。また、今回の式典のために60人で組織した「更科源藏の詩を歌う会」の皆さんが混声合唱組曲「海鳥の歌」を披露しました。



町の話

町の話

修学旅行で酪農体験

横浜市立南高校生徒が本町で農家民泊



川湯ふるさと館でのバター作り体験

横浜市立南高校の生徒40人が10月4～6日、修学旅行で町内を訪れ、2泊3日で18戸の酪農家宅でファームステイを行いました。都会の子どもたちに酪農への理解を深めてもらおうと、釧路地区農協組合長会と釧路地区酪農対策協議会が事務局となり、中山間事業の取り込みとして毎年修学旅行の受け入れを行っています。生徒たちは、朝晩の搾乳や子牛へミルクを与える作業などを手伝いながら、酪農家の皆さんと寝食をともにしました。

5日には、川湯ふるさと館でのバター作りやエコミュージアムセンターでの自然散策なども体験。最終日6日の離別式では、お世話になった酪農家の方々との別れを惜しんでいました。

慣れない作業にも一生懸命な生徒たち

貴重な自然を次代へ

昭栄小・川湯中・和琴小・丸高産業が自然の番人宣言



宣誓書を読み上げる児童会長の高橋さん(昭栄小学校)

自然の番人宣言認定式が10月17日、昭栄小学校(奥田泰朗校長)で行われました。認定式では、児童会長の高橋志歩さんが宣誓書を読み上げ、釧路管内市町村「自然の番人宣言」推進委員会からの認定証が徳永町長から手渡されました。

自然の番人宣言は、廃棄物の不法投棄やポイ捨てなどから貴重な自然環境を守り、将来に継承していくことを目的に、2006年に管内全8市町村共同で行っています。この趣旨に賛同し、同宣言を行っている事業所や団体は町内で13あり、昭栄小学校が14番目、学校としては初めての宣言となります。今後は宣言に基づき、自然環境保全の取り組みを学校ぐるみで行っていきます。

また、10月20日には川湯中学校(辻川尚志校長)、10月24日には和琴小学校(合田晃子校長)、(南丸高産業(村岡幸雄代表取締役)も同宣言を行いました。



(上)認定書を受け取る生活保健専門委員長の海老名梨々香さん(川湯中学校)

(下)宣誓を行う児童会長の河上綾花さん(和琴小学校)